

あがるアートとのであいの場! であうアート展

Eテレ(ハートネットTV)にて、不定期に放送している「あがるアート」シリーズでは、人々を前向きにさせてくれるアートを紹介しています。そんなパワーを持つ、アート作品を展示した「であうアート展」が先日開催されました。その様子を紹介します!



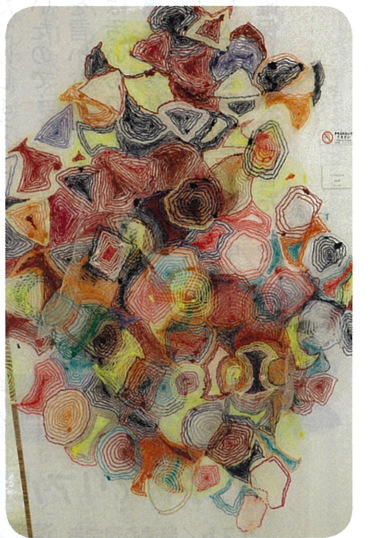
それぞれの作家の個性を強く感じる場となった。



一つの作品をじっくり鑑賞する来館者が多かった。学生とアーティストとの交流を記録した映像も。



色鉛筆、ペンで描いた「ヘビ」と「ペンギン」。



チュール、毛糸で作られたニードルワーク。

会場: 流通経済大学(新松戸キャンパス)

「デ」ンションがあがる」「企業価値があがる」「地域の活力があがる」など、人々を元気にさせてくれるアートを、Eテレ(ハートネットTV)は「あがるアート」と名づけています。そんな「あがるアート」と出会うことのできる展覧会「であうアート展」がことし10月に、流通経済大学の新松戸/龍ヶ崎キャンパスなどで開催されました。

展示作品は、千葉県成田市にある障害者支援施設「生活工房」に所属する、7人のアーティストたちの作品およそ100点。絵画だけでなく、粘土造形、ニードルワークなど、形式にとらわれることのない、ユニークな作品ばかりです。

さらに、流通経済大学の学生たちと、障害者との交流の中で生まれた、活動の記録映像を展示。特に印象的だったのは、「なにより作品を作ることを楽しさを感じていて、すてきだった」という学生の言葉。楽しく制作した作品が、誰かに元気を与えるものに。アートの持つパワーを改めて感じました。

アートの多様な人々をつなげ、さらに地域社会の連携や活力を「あげて、いくものになると確信した」のであり、となりました。

取材・文/内田凌斗

「であうアート展」

宇佐美 英志

NHKサービスセンター
チーフ・プロデューサー

「すごい絵だなあ!」。生活工房で、障害者アーティストたちが描いた作品を初めて見たときの感想です。いい悪いという評価の域を超えて、その解き放つパワーに圧倒されました。

障害者によるアート作品は、彼らの第二の言語ともいえます。彼らの放つエネルギーはどこから来るのだろうか。一つ一つの作品と向き合いながら、このすごさをみんなに伝えていきたい。この問いかけをし続けていくことが、本プロジェクトを成功に導く手がかりとなりました。

「であうアート展」は、SDGsの理念である多様性の理解促進に寄与するべく、流通経済大学が発起人となって、アート作品を活用した社会貢献プロジェクトとして発足しました。大学

今回の展示会で、多くの人がすばらしいアート作品と出会った。

生たちが主導となり、障害者アーティストとさまざまな交流を通じて、学内で実施する展覧会に向けて準備をする教育プログラムを計画しておりました。

しかし新型コロナウイルスの影響により、その交流もままならず、展覧会の実施も危ぶまれました。大学側と協議を重ね、展覧会は時期をずらして実施。展覧会を学生、地域の方々との「出会い」のスタート地点とすることで、関係者の協力、自治体の後援等もいただき、多くの方々にご来場いただきました。

実際に私が体験したように、作品の力強い色使い、輪郭線の本一本本までが来場者に語りかけてきます。そして得も言われぬ感動で心が揺さぶられます。来場者からの数々の声から、そのことが実証されました。地域の広報誌を見て会場を訪れた、年配のご夫妻が感動のあまり涙ぐみながら、熱心に鑑賞されていた様子は印象深いものでした。このプロジェクトは今後各地の障害者施設の協力をいただきながら、日本全国を巡回することが計画されています。さまざまな可能性を秘めた彼らの作品で、日本全国に元気を与えていきたいと思えます。

あがるアートの会議2021

12/7 火、8 水
Eテレ 後8:00~8:30



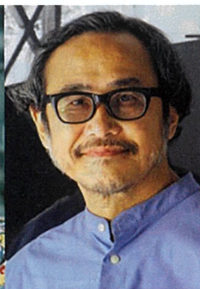
去年の「あがるアートの会議」の風景。

アートをさらに身近にするにはどうすれば? もっと世間に広めるためには? など、あがるアートをもっと「あげていく」ために、各業界の論客が集結して徹底討論! 去年12月に第1回会議が開催され、アートが、地域や医療、福祉現場にどんな変化を生み出すのか、議論した。今回の会議では、アートが福祉・地域・ビジネスなどとかげ合わされて生まれた成果を、今後どう発展させることができるのかを考えていく。アートにはどのような力があるのか。ぜひ一緒に考えてみよう。

出演者



安藤 桃子
(映画監督)



遠山 正道
(実業家)



原田 啓之
(障害福祉サービス事業所「PICFA」施設長)



松田 崇弥
(福祉実験ユニット「ハラルボニー」代表)



松田 文登
(福祉実験ユニット「ハラルボニー」副代表)



森 合音
(NPO「アーツプロジェクト」(福祉実験ユニット「ハラルボニー」)ホスピタルアートディレクター)